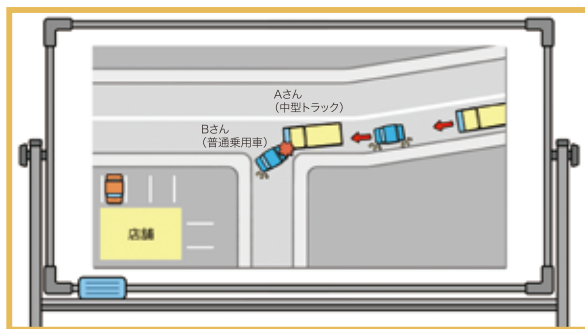


事故事例をもとに安全運転のポイントを紹介。社内での安全運転活動にお役立てください。

事故に至るまでの状況

Aさん(50代、中型トラック、女性)は平日の朝9時ごろ、わずかに右に曲がる片側3mの単路をBさん(60代、普通乗用車、女性)に追従しながら進行していました。Bさんは、道路左前方にある店舗の駐車場に入ろうと減速し、直前で停止したところ、Aさんのトラックに追突されました。この事故によりBさんの車は中破、頸椎捻挫の傷害を負ってしまいました。

事故現場略図



事故の原因

Aさんは、Bさんが左折して駐車場に入ろうとしているのは認識していましたが、そのまま停止せず左折をするものと思い込んでいました。Bさんの車の動静

への注視を怠り、前方進路の方を見ながら進行したため追突したものです。

安全運転に向けて指導のポイント

車両相互の追突事故は、最も多く発生する事故類型です。事実、2017年の人身事故となった追突事故件数は、約16万8千件と全事故件数の約35.5%を占めています。追突の原因となった法令違反をみると、最も多いのは脇見で35.3%、次いで動静不注視23.3%となっています。Aさんの動静不注視とは、事故相手を認知しながら、その危険性を軽視して動きに注視しなかったことです。「Bさんは左折する直前で

停止することなくそのまま進行するだろう」という、Aさんの予測と判断が誤っていたのです。起こりそうな状況を予測していれば、Bさんの車を注視し、速度を落として適切な車間距離を保ったまま進行できたはずです。このような事故事例を基に、普段から危険予測のための「引き出し」を多く身に付けておくことが大切になります。

今月の安全メモ!

- ・思い込みは禁物! 前車の動静に注視し、最も起こりやすい事故類型である「追突事故」を防止しよう!
- ・普段から危険予測トレーニングを行い、危険を読むセンスを磨こう!